

メータオ・クリニック支援の会 (JAM) 会報メール 第32号 [2011年6月号]

メータオ・クリニック支援の会 (JAM) 支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第32号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ/ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動を毎月中～下旬ごろ、会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<目次> [ページ]

シンシア先生の本 発売中!	[2]
平成22年度JAM総会および活動報告会を実施しました	[2]
緊急支援の呼びかけ～メータオクリニック シンシア・マウン医師の声明を受けて	[3]
国内から (淵上 養子)	
・ 保健師という仕事	[8]
編集後記	[10]
次号の予定	[11]



シンシア医師の本 発売中！

『タイ・ビルマ 国境の難民診療所—
女医シンシア・マウンの物語』

(新泉社、1800円)



全国の書店、またはアマゾン等で発売中です！！

当会が編集協力した『タイ・ビルマ国境の難民診療所—女医シンシア・マウンの物語』
(新泉社、定価 1800円) が発売中です。

本書は、当会の支援先であるメータオ・クリニックとその創始者シンシア・マウン医師に
焦点をあてたものです。

当会は、さまざまな現地情報の提供、スタッフの梶藍子看護師による体験記の収録等で協
力しました。

本書の印税は、当会を通してクリニックへ全額寄付されます。

ぜひお買い求め下さい！！

.....
タイ・ビルマ国境の町メソット。

ビルマ軍事政権の弾圧を逃れてタイにやってきたものの、
お金がなく、病院に行くことができない難民や移民に
無料診察を続けている診療所「メータオ・クリニック」。
自身もカレン難民である院長のシンシア・マウン医師と診療所の
20年以上にわたる取り組みを紹介する。(本書帯より)

.....
根本 敬氏 (上智大学外国語学部教授)

「私が尊敬してやまない女性医師シンシアさんの地道な医療活動と、
彼女の人格的な魅力について、本書はとてもわかりやすく紹介してくれている。
メータオ・クリニックが抱える日常の苦難についても明確に書かれている。
本書の日本語訳出版を心から喜びたい。」(本書解説より)

平成22年度JAM総会および活動報告会を実施しました

去る6月12日、平成22年度総会・報告会が開催されました。

報告会には、21名の方々にご参加いただきました。

質疑応答では積極的にご質問をいただき、また、懇親会では和やかな雰囲気での交流が図れる
など有意義な一日となりました。



皆様どうもありがとうございました。

1年間、当会をあたたく見守ってくださった皆様にお会いできたことをスタッフ一同、心より嬉しく感じております。

写真は、総会、報告会の様子です。

報告内容は当会HP (www.japanmaetao.org) にまとめ次第、掲載いたします。ぜひ、ご覧ください。



緊急支援の呼びかけ

～メータオクリニック シンシア・マウン医師の声明を受けて～

6月7日メータオクリニックからの支援の呼びかけメッセージを受け、ビルマを支援する団体が共同で寄付を募る運びとなりました。

メータオ・クリニック支援の会も賛同させていただいています。

昨年11月のビルマ総選挙後、タイ国境において停戦合意中の少数民族武装勢力がビルマ国軍への強制編入および総選挙への強制参加に反発し、ビルマ国軍との間に武力衝突が発生しました。

その結果、衝突直後最大1万人以上の難民がタイに流入しました。今年1月以降、戦闘はビルマ南部の農村部へと広がり、今現在は田植えの時期にあたることから、今後食糧危機が更に深刻化することが予想されます。戦闘は現在まで続いており、避難民たちは長期にわたって居住地に帰還できない状態が続いています。

こういった状況を受け、タイ・ターク県のメータオクリニックで長年にわたって、難民等への医療活動に携わってきた著名な医師、シンシア・マウン氏から緊急の支援を訴えるメッセージが届きました。(下記参照)。

ビルマ難民支援基金事務局では、シンシア医師の切実なメッセージを重く受け留め、日本国内の皆さまに緊急支援の呼びかけを行うこととしました。



14万人以上ともいわれるタイ・ビルマ国境地帯のビルマ難民は、日常的に過酷な生活を余儀なくされています。

こういった難民がさらに膨れ上がろうとしている現状を少しでも改善できるよう、皆さまからの支援をよろしくお願いいたします。

<支援金 振込先>

三井住友銀行 麴町支店 (218)
(普通) 1607998

口座名「ビルマ難民支援基金事務局 渡邊彰悟」

※支援金は全額メータオクリニックに直接送金させていただきます。

[賛同] ビルマ市民フォーラム <http://pfb-japan.org/>
メータオクリニック支援の会 <http://www.japanmaetao.org/>
日本ビルマ救援センター <http://www.brcj.org/>
(社) アムネスティ・インターナショナル日本 <http://www.amnesty.or.jp/>



(写真：2011年2月3日 Pho Phra 地区にて撮影。メータオクリニック支援の会提供。)

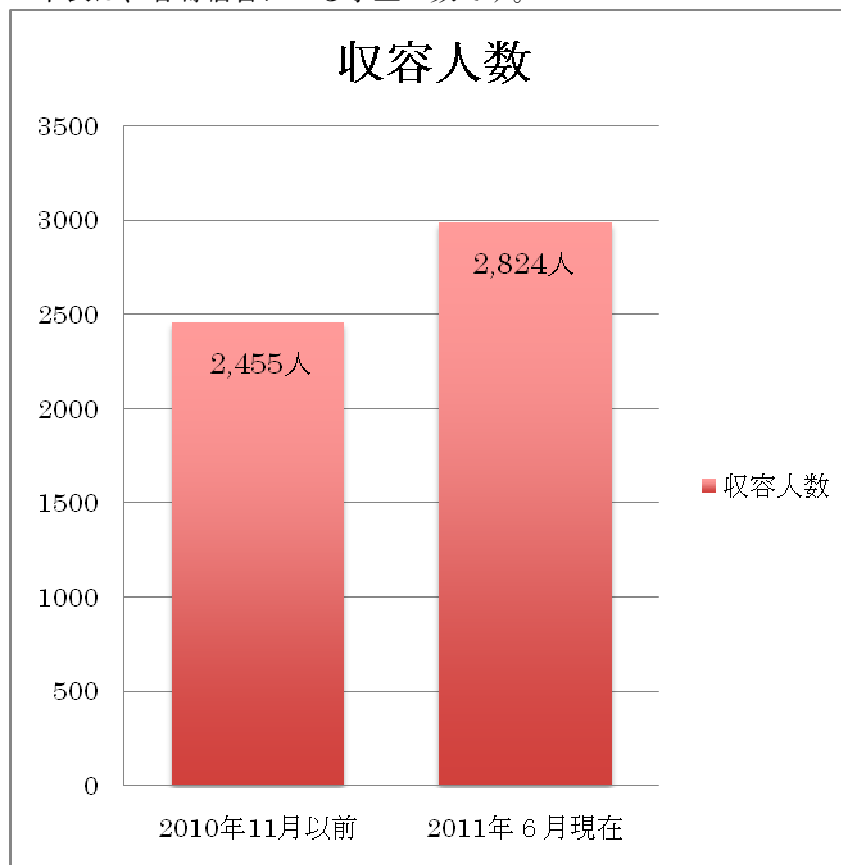
2010年11月の危機的状況についてメータオクリニック支援の会としても確認をおこないました。

数年来、当会は学校保健事業を実施し、現地担当者とは信頼関係が構築されているため、詳細な各寄宿舍学生数の動向について状況を把握しました。

これにより学生数の大幅な増加傾向を確認されました。

この状況を鑑み、緊急支援の必要性について、皆様のご理解を賜りたいと考えています。ご理解、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

下表は、各寄宿舍にいる学生の数です。



<シンシア医師からのメッセージ 2011年6月7日受取>

支援者のみなさまへ

ご支援のお願いのためこのメッセージを書いています。

ご存知のように、2010年11月にビルマで行われた選挙後、ビルマで紛争が勃発し、何千もの人々がタイに流入しました。

メータオクリニックと協力団体はこの難民保護のため最も必要とされたシェルターと食料を提供してきました。



しかしながらこの紛争は停戦の兆しを見せず、人々のわが子への心配は募るばかりです。彼らは家に帰りたいと熱望しながら、

地雷や強制労働、戦闘といった危険に阻まれています。日中はなんとか家に戻り軍隊から家や畑を守る村民もいますが、夜間は安全のため国境を超えタイ側に避難しています。

この紛争に影響を受けた子どもの状況はさらに深刻です。ビルマ国内の学校は休校となったままで、親たちは教育が滞ることを懸念しています。メータオクリニックとその他の団体はモバイル教育ユニットを結成し、こうした子どもたちに教育の機会を与えるよう努力してきました。しかしできる限りの安定と保護を提供するため、より長期的な政策が必要とされています。

メータオクリニックと関連団体、紛争被害地域団体は寄宿舎と学校がこうした状況を改善するのに適した場所だと判断しました。現在606名の紛争の直接被害児童を確認し、寄宿舎と学校に住まわせています。こうした寄宿舎は国境の近くに位置し、困難な状況においても家族が近くで暮らす機会を与えています。



シンシア・マウン医師 (山本宗補氏提供)

私たちは子どもたちへの食糧供給のため、みなさまの支援を必要としています。メータオクリニックは紛争勃発前より2805名の児童に対してすでに食糧支援を行っており、今年6月(新学期)からは10%増と予想していました。しかし現在の児童数の増加は想像以上であり、すべての子どもたちに食料を与えるための予算を組むことができません。助けていただけないでしょうか？

300パーツ(約900円)で1人の子どもに1ヶ月分の食事を与えることができます。これからの10ヶ月間この子どもたちを食べさせるのに、180万パーツ(約540万円)が必要です。

みなさまのできる範囲で紛争によって避難を余儀なくされた子どもたちを守って下さい。

以下のウェブサイトより直接寄付ができます。

<http://maetaoclinic.com/donate.html>

どんな小さなお心遣いでも光栄に思います。みなさまとご家族が平和でありますように願っています。

シンシア・マウン
メータオクリニック院長

<以下原文>
Dear Friends,

We are writing to ask for your help.



As many of you will know, conflict broke out in Burma following elections in November 2011, forcing thousands of people across the border into Thailand. Mae Tao Clinic and its partners have been assisting these refugees hiding along the border by providing much needed shelter, food and protection.

But the conflict shows no sign of stopping. And parents are getting increasingly worried about their children. Although people have been expecting to go back home, many dangers face them and their children on their return, such as landmines, forced labour and fighting. Some villagers return to their properties during the day to try to protect them from the army, but they still must seek safety across the border at night.

This situation is highly disruptive and distressing for the children affected by the conflict. Schools still remain shut in Burma, yet parents have been expressing a concern over their children's education since November. Mobile education units were set up by MTC and other organizations in a bid to give them access to education, but a longer-term solution is now required to provide these children with some semblance of stability and protection.

MTC, its partners and the community affected by the conflict have agreed that integration into boarding houses and schools is the best solution for the children at this time. We have identified 606 children directly affected by the conflict and are now giving them places in boarding houses and schools. These boarding houses are close to the border, giving the families an opportunity to remain close, despite the difficulty of the situation.

We now desperately need your support to provide food for these children. MTC was already feeding 2,805 people before the crisis and we had budgeted for a 10% increase in student numbers in June. But the current rise has been unprecedented and we do not currently have the funds to cover the cost of food for these children. Could you help?

It costs 300 baht to pay for a month's supply of food for each child. To feed these children for the next 10 months, we need 1.8 million baht in total (approximately \$62,000 USD). You can help us protect and provide for these children displaced by the conflict by giving as much as you can. A donation of \$20 can pay to feed a child for two months. Please visit www.maetaoclinic.com/donate to make a vital contribution.

We are grateful for whatever you can contribute to help these children affected by the conflict.

Peace and warm wishes to you and your family.

Sincerely,

Dr Cynthia Maung
Director of Mae Tao Clinic

(写真：2011年2月3日 Pho Phra 地区にて撮影。
メータオクリニック支援の会提供。)



国内から

保健師という仕事

【東京＝淵上 養子】

事務局を担当しております、淵上と申します。
日頃よりJAMの活動を応援して下さる皆様に心より感謝申し上げます。
温かいご支援をいただき、本当にありがとうございます。

さて、今回会報の記事を書くにあたり、何をお伝えしようかなと思ったとき、私の本業である保健師の仕事についてお話ししようと思いました。

JAMのスタッフはご存知のように皆自分の仕事を持ちつつ、JAMの仕事はボランティアで行なっています。医師、看護師など医療に携わる職種が主ですが、公衆衛生分野の大学研究者、保健師、またSEなど他分野の仕事をしているスタッフもいます。

この中で、保健師という仕事について聞いたことはあるけれど、どんな仕事をしているのかよくわからないという方が多いのではないのでしょうか。

実際に、「学校の保健室の先生?」「保険のセールスをする人?」などと言われ、正直少し残念に思うことがありました。また、東日本大震災の被災地に全国の自治体から保健師が派遣されているというニュースを聞いて「保健師って何する人?」と思われた方もいらっしゃるかもしれません。そこで、この場をお借りしてどんな職業かご紹介させていただきたいと思います。

保健師の多くは都道府県や市町村といった地方自治体に所属していますが、企業の健康管理室や病院で働く保健師もいます。

その中で私は市の職員として働いているため、市町村保健師としての仕事内容をお伝えしたいと思います。

まず、大まかに市保健師の仕事を表現すると、「市民の皆さんがより健康に暮らせるように支援する専門職」だと思います。

この「健康に」という意味には、病気を持っていないということだけではなく、より広い意味を含めて、例えば、障害をお持ちの方や介護を必要とする方にとっても、より暮らしやすくなるよう支援することです。そういう意味で私の中では保健師の仕事は「市民の皆さんがより幸せに暮らせるように支援すること」だと思っております。

具体的な仕事の内容について、所属部署が担当する業務を例にお話します。当市は人口30万人以上の中核市なので、市町村だけでなく県の機能も担っています。どういうことかといいますと、保健所と保健センターの両方を持っていて、保健センターの中でも保健所がやるべき仕事を行っています。

私は保健センターの「成人保健担当」に配属されており、主に成人を対象とした健康教育や相談、高齢者の介護予防教室の運営などを行なっています。また、保健所の業務として特定疾患等医療給付申請の窓口となっており、特定疾患に指定させる難病の方の医療費を助成する制度の申請受付、在宅で療養している難病患者さんへの訪問支援、患者会の運営支援、



患者交流会や講演会の開催、地域で難病の患者さんを支援する専門職を対象に研修会等を行っています。その他、石綿（アスベスト）健康被害救済給付申請事務、肝炎インターフェロン治療医療費助成申請事務も保健所業務として行なっています。

規模の小さい市町村の保健師は、このような成人・高齢者への支援に加えて母子保健など、どの年齢層に対しても、ひとりの保健師が受け持つ場合が多いと思いますが、私の自治体では所属担当ごとに支援対象が分かれています。

余談ですが、先日、息子の通う保育園の先生に「保健師さんだとお聞きしたので、今度の親子参加（という行事）で子どもとのふれあい遊びの講師をしていただきたいのですが」とお願いされましたが、「私は保健師ですが、成人の方や高齢者を対象としていまして・・・」とお断りしました。そうしたら「保健師さんってそういうものなのですか・・・」と不思議そうな顔で言われてしまいました。保健師は、本来どの年齢の方も対象とする仕事なので、母子関係はできませんというの、悔しい話なのですが、実際、私の自治体では異動がない限り触れない分野もあるのです。

さて、ここで以前していた看護師の仕事と比べて大きく違う点を考えてみました。

ひとつは、仕事がすべて法律に基づいているということです。成人保健担当の事業は「地域保健法」「健康増進法」「高齢者の医療の確保に関する法律」「介護保険法」「難病対策要綱」などの法律や要綱に沿って実施されています。法律が改正されると、例えば、教室の対象者の条件が変更されたり、新しく事業を作ったり、相談窓口になったりということがあります。

看護師の仕事も法律に定められていますが、日々の業務の中で意識することはなかったので、保健師になりたての頃は法律に規定されていないことはできないという点に戸惑いました。また、少し窮屈に感じたり、法律の改正で大幅に変更される業務もあるので振り回されているように感じることもあります。しかし一方で、その時々健康問題、世の中の流れに密接に関わりながら仕事をしているという充実感を感じることもあります。

もうひとつは、やはり疾病の予防に関われることです。以前、神経内科の病棟で看護師として働いていたとき、高血圧や糖尿病を持っていて脳梗塞になられる方が多くいらっしゃいました。予防がどこまで可能かはわかりませんが、少なくとも高血圧や糖尿病を重ねて持っているということは改善が必要な生活習慣があったのではないかと感じ、病院へ来る前の疾病予防の分野に携わりたいという気持ちを強く持っていました。

そのため、予防のための健康教育や相談に関われること、中には予防の大切さを実感した市民の方が自主的に体操グループを作って熱心に活動されている姿を目にすると、とても嬉しく思います。予防行動に移るための支援は大変な根気と工夫のいることですが、どうアプローチするのが効果的かを考えることは保健師ならではの仕事だと思います。

それから、最後にもうひとつ、保健師は自分で何かするというよりも市民同士や専門職間をつないでコーディネートすることが多いというのが特徴的な仕事だと感じます。

例えば、難病患者さんの個別支援において、介護の専門家であるケアマネージャーと在宅でリハビリを行う理学療法士、作業療法士、訪問看護師、福祉サービスが専門のケースワーカー、主治医など患者さんを取り巻く専門家とうまく連携して療養生活がより快適になるように整えるのが保健師の役目です。



教室の運営でも、保健師自信が講義を行うだけでなく、適切な講師を選定して依頼し、打ち合わせをして教室を作っていくことをしていきます。私にはまだそのセンスがありませんが、絶妙な調整で様々な人と連携して個別支援や事業運営をしている先輩を見ていて、保健師という仕事の奥深さを感じるときがあります。

このような保健師の仕事に、看護師から転身したばかりの頃は、対象の幅が広くて効果が見えにくいのでやりがいを感じられず辛いときもありましたが、今はほんの少しずつ面白さを感じ始めてきました。

まだまだ経験の浅い保健師ですが、ミャンマー／ビルマ・タイ国境で移民・難民として生活する人たちが自分の受け持つ地域住民だとして考えたとき、保健・医療・福祉すべての分野で住民が守られるべき制度がない現実、日本の地域と比べようのない大きな差を感じます。自治体レベルにまで膨れ上がった移民・難民への支援を続けるシンシア医師の肩にどれほど重い負担がのしかかっているかと想像すると、心が押しつぶされる思いがします。

特に生活を保障する福祉制度のない状況で、人々の生活を守るためには果てしない支援が必要です。

自立発展性のある支援を考慮して JAM は活動を続けていますが、なかなか現実的に困難な面があることを理解しなければなりません。保健師として、メータオ・クリニックと周辺に暮らす人々のために何ができるか、これからも保健師としての経験を積みながら考え、活動を続けていきたいと思っています。

今後とも温かいご支援の程、どうぞよろしく願いいたします。

編集後記

先日の総会にて発表させていただきましたが、来月下旬から、新しく現地スタッフが赴任します。彼女は、東京都内にある独立行政法人立の総合病院にて経験を積み、直近では手術部にて勤務しておりました。メータオ・クリニックでも、即戦力として感染管理対策等の技術支援で活躍します。

また、新たに現地にスタッフが駐在することにより、最新情報を会員の皆様にもタイムリーにお伝えできるようになります。引き続き、JAM をご支援のほど、どうぞよろしく願いします。

ちなみに彼女の特技は、乗馬です。人に指導できるほどの上級レベルです。まあ、さすがにメソトで馬に乗って巡回はしないでしょうけど・・・

あと、細身なのにご飯の食べっぷりは、気持ちいいです☆どこにおさまってるんだか（笑）

初めての海外での生活になるようですが、あの人懐っこいキュートな気配りスマイルで3代目現地スタッフは、どんな現地レポートを届けてくれるのでしょうか。会報担当は、今からはやくも楽しみです。



